二〇一二年度

N国語問題

注意

一　試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
二　解答用紙はすべて**ＨＢの黒鉛筆またはＨＢの黒のシャープペンシル**で記入することになっています。ＨＢの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。（万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。）
三　この問題冊子は**16ページ**までとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は**一～三**となっています。
四　解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に**氏名**のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
五　解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
六　解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
七　この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

一　マークは、左記の記入例のようにＨＢの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
二　一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
三　訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ ○ ● ○ ○ 1 2 3 4 5

（3と解答する場合）

一　左の文章を読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

もうだれも口にしない言葉だが、何かが誕生することはもともと「うまる」と言った。「生む」（産む）という他動詞に対して、「生まる」という自動詞があった。「切る」に対する「切れる」、「冷やす」に対する「冷える」、「散らす」に対する「散る」のように。それがいつからか、「生まれる」と言うようになった。

考えてみればしかし、「生まれる」という自動詞は、「生む」（産む）という他動詞の受動形でもありうる。「生まれる」とははたして自動詞なのか他動詞なのか。言語史に疎(a)[redacted]いわたしには、その間の事情はよくわからない。そこで、日本語についての疑問が湧くといつも訊ねる日本語の専門家、金水敏（きんすいさとし）氏に教えを請うた。

金水氏の説明はこうである。日本語においては、他動詞は対象に対する働きかけを、自動詞は対象の無意志的な変化を表わす場合が多い。「うむ／うまれる」も当然、他動詞／自動詞の対として認識されているが、「うまれる」の語形は受動の語形でもある。ただし、日本語の場合、受動文は、たんに「他者の作用を受ける」という受け身の意味を表わすのみならず、それを受ける主体の感情や意志をも表現するための表現形式として発達してきた……。これを前置きとして、氏は実例をひとつあげた。

「テストの時、監督の先生にずっとそばにいられて困った。」

このとき、「いられる」という受動のかたちで、話者の［　　］感情が表わされている。あるいは、「多くの人に愛されたい」というときのように、受動形で主体的な意志を表わすことすらある。日本語において、受動文とはじつは主体性の強い表現なのであり、それゆえに、人間を代表とする有生物を主語とするというのがつねである。しからば、と次に決定的な言葉が続いた。「この点から見ると、〈うまれる〉とは、たんに〈うむ〉という行為の結果として生じる客観的な出来事というよりは、産み落とされる側のその(1)立場に身を寄せた表現であるといえる」、と。

畳みかけるように、説明が続く。

たとえば次のような表現の対を見てみよう。「うみたての赤ちゃん」と「うまれたての赤ちゃん」。わたしたちは、産む母の側に身を寄せた「赤ちゃんをうむ」という表現が使えるのに、「うみたての赤ちゃん」とは言いにくい。これは、すでに生まれている赤ちゃんのほうを表現の中心に据えたばあい、産んだ母よりも、赤ちゃんの側の主体性に着目した「うまれる」という表現がよりふさわしいと感じられるからである。このことは、次の例からも明らかである。ひとは「うみたての卵」とは言うが、「うまれたての卵」とは言わない。が、ひよこについては、「うみたてのひよこ」とは言わず、「うまれたてのひよこ」と言う。これは、卵のばあい、それを表現の中心に据えたとしても、卵に身を寄せた表現を取ることができないからだ。わたしたちは、親鳥の主体性を感じ取ることはできても、卵の主体性を感じ取ることができない。しかし、卵からかえったひよこには主体性を認めることができるので、「うまれたてのひよこ」という表現が可能となる。一点の淀みもない説明である。そしてこのあと、氏は言わずもがなという顔をしてこうつけ加えた。「そもそも親鳥はひよこを産むわけではないのだから、『うみたてのひよこ』などと言えようはずがない」、と。

「うまれる」が自動詞でありながらなぜ受動のかたちをとるのか。その答えは以上のごとくである。決定的なのは、「〈うまれる〉とは、たんに〈うむ〉という行為の結果として生じる客観的な出来事というよりは、産み落とされる側のその立場に身を寄せた表現である」という点である。つまり、ある存在をその存在のほうから見るということ。「生まれる」とは、産んでもらったという含意を強くもつ。このことをまるで純然たる自動詞のようにとらえる現代人は忘れている。〈わたし〉の存在はその出生の時点からして、与えられたものであるということを、である。それだけではない。人間はだれしも、早産というかたちで、いわば未完成のままこの世に生まれ出てくる。他の哺乳類のように、生まれてすぐにみずからの脚で立つことはできない。その生命の維持のためには、そもそもが他者による介助を必要とする存在なのである。

それだけではない。〈わたし〉の名は他者によって与えられる。わたしたちは他者からサズかった名を生きる。(イ)

さらにそれだけではない。〈わたし〉という存在のカンバンである顔もまた他者から与えられる。顔ははじめか(ロ)

らついているではないかと言うむきもあろうが、(2)わたしの表情は他者によって分節される。このことは、乳児を前にした母親の態度を思い起こせばよくわかる。母親は、端から見ていて恥ずかしくなるくらいに、「口を大きく動かし、頭をうなずくように振り、目を見ひらき、おおげさな身ぶりで赤ちゃんに語りかける（空間的な誇張）」、「ことばやしぐさが、スローモーションをかけたように、ゆっくりになる（時間的な誇張）」、「笑い、驚き、眉をしかめる（情緒的な誇張）」（下條信輔『まなざしの誕生』より）。このような母親の対応は、子どものなかで発生しかけている志向性にシンクロナイズし、それを増幅するというかたちで、子どもの経験や表現の分節化を助長するものであろう。子どもの潜勢的な志向性に対する(3)母親のこうした増幅された送り返しのなかで、子どもは世界との関係をすこしずつ理解してゆく。身につけてゆく。

が、さらにさらに、それだけではない。〈わたし〉というものは、どのような他者のどのような他者でありえているかということによって決まる。〈わたし〉という存在が危機に瀕するのは、〈わたし〉がいかなる他者の意識の宛先ともなりえていないときである。いてもいなくても他者になんの影響もおよぼすこともないじぶん、そのような存在はなきにひとしい。そうひとは感じる。愛情や好意の対象でなくてもいい、憎しみの宛先であっても、鬱陶(うっとう)しい対象とされてもいい、それでも他者が無視できない存在としてわたしがあるときには、〈わたし〉は存在する。が、いかなる他者にとっても関心の対象ではない存在になったとき、もはや見棄てられる存在ですらなくなったとき、ひとは(4)〈わたし〉を(b)喪う。

（鷲田清一『死なないでいる理由』による）

問

(A) ――――線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。（ただし、楷書(かいしょ)で記すこと）

(B) ▬▬線部(a)・(b)の読みを平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(C) 空欄 □ にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 怒りの　2 控えめな　3 あいまいな　4 被害の　5 あきらめの

(D) ——線部(1)について。その説明として最も近い意味を表すもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 弱さを気遣う表現　2 主体性を認めた表現　3 成長を期待する表現
4 未来を懸念した表現　5 誕生を祝福する表現

(E) ——線部(2)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 相手によって一つひとつの表情が創られること
2 表情と行為が明確に区分けされること
3 自分の表情にそれぞれの名前がつけられること
4 相手の表情と自分の表情を区別すること
5 自分の表情に相手が意味を与えること

(F) ——線部(3)について。母親の送り返しの具体的な例として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 「いない、いない、ばーっ」
2 「ジュースがおいしいねー、おいしいねー」
3 「泣かないでね、いい子だから」
4 「ママはあなたといるのが一番うれしいのよ」
5 「いたいの、いたいの、とんでいけー」

(G) ――線部(4)について。ここで言う〈わたし〉の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 他者によってうみ出され、他者によって無化されるわたし

ロ 受動的でありながら意志的に世界に関わっているわたし

ハ 生まれたときから高齢になるまで他者の介助を必要としているわたし

ニ 他者によって意味のある対象とされ、関与されるわたし

ホ 他者によって表情や感情などを形成されている受け身のわたし

(H) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 日本語において受動文は主体的意志や感情を表すことがある。

ロ 人は人間関係の中で誕生し捨て去られていく。

ハ 哺乳類は人間を含めて早産で誕生する。

ニ 一般的に私たちは産む側の立場に立って認識している。

ホ 私は他者の関心の対象となることで自分の存在を確認する。

二　左の文章を読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

私のゼミナールを出て社会人となった卒業生たちとときどき勉強会を開いている。去年の夏は、聖フランチェスコ(注1)の清貧の思想を考えることにした。私の問題意識は、世界的な規模での経済成長が今までのような形ではもはや不可能と考えられている今日の状況の中で、ライフ・スタイルとしての清貧の思想をどのように受けとめたらよいか、ということである。

フランチェスコはアッシジの裕福な商人の息子として生れ、若いころはプレイボーイとして派手な暮らしをしていたが、やがて都市国家間の戦争に参加する。彼の夢は武勲を挙げて騎士に取り立てられ、貴族に列せられることであったが、二四歳のとき、突然神の啓示を受け、神と人々への奉仕のために生きることを決意する。四三歳で死ぬまでの間、自発的極貧の中で労働・托鉢(イ)・ヒョウハク・伝道・瞑想の血みどろの生活を送った。こうしてフランチェスコ修道会が作られた。

フランチェスコの生き方は、すべての所有物を放棄し、文字通り裸(ロ)イッカンから出発し、屈辱・汚穢・貧困・苦痛・悲惨の中で生きることを喜びとした。自らを卑しいもの・取り柄のないもの・最低のもの・弱いもの・小さいものと考えることは、神の謙虚さに倣(a)うことであった。神の前では、人は塵（無）に近い。彼の托鉢修道会はみずからを「小さき兄弟会」と称した。なぜ、フランチェスコはこのように「最も恵まれないもの」に配慮し、それに自らを同化することにこだわったのか。

(1) フランチェスコにとって、「物の貧しさ」は「心の貧しさ」に至るための手段であった。日常的な意味では、「心の貧しさ」とは、知性が乏しく、人情に薄く、品位に欠けることを意味し、要するに精神性の欠如をいう。たとえば、「［a］足りて［b］を知る」という箴言は、物質面の生活が豊かになれば、精神面の生活も豊かになるはずだという。ひととき『――の品格』という題の本が流行したが、いずれもこの意味の「心の豊かさ」を讃えるものであった。山上の垂訓はこれとは反対のことを説く。「心の貧しい人々は幸いである。天国は彼らのもので

ある」（マタイ福音書五・三節）。曾野綾子[注2]の解説によると、ヘブライ語でいう「心の貧しい人」とは、虐げられた人・苦しむ人・へりくだる人・弱い人・要するに何も持っていない人をいう。フランチェスコは「物の貧しさ」（清貧・無所有）に徹することによって、この意味での「心の貧しさ」（無私・無欲）を獲得しようとしたのである。

フランチェスコにとって、無私・無欲は自己愛を否定し、富・地位・権力への欲望を克服し、神の前における兄弟としての平等に到達するための宗教的実践の手段であった。清貧の戒律によって追求されているものは、彼の『太陽の賛歌』におおらかに歌われているような普遍的な人類愛ではないだろうか。

さて、勉強会の参加者諸君の反応は、物質的豊かさを否定して、聖人のような清貧の生活を送ることは現実には考えられないという白けたものであった。これは当然の反応である。それでは、清貧の思想は単なるたわごとであろうか。そうではない。以下は私の解釈である。参加者はこれには得心がいったようであった。

手掛かりにしたいのは、ジョン[注3]・ロールズの正義論における「無知のヴェール」[(2)]という概念である。人々はめいめいの幸福を追求しているが、それらの営みが社会の中で共存可能となるためには、正義のルールが必要である。正義のルールを合意するためには、個々人が自分のアイデンティティ（目的・願望・欲求・所得・能力・地位・国籍・時代など）の情報にヴェール（覆い）をかけて、消去しなければならない。めいめいのアイデンティティから出発するならば、各人は自分に有利になるように正義の観念を歪曲しがちであり、人々の間で対立が生まれるにすぎず、力による決着しか残らない。公正な正義に到達するためには、個々人のいっさいのアイデンティティをあらかじめ消去し、普遍的立場に立つための論理的工夫が必要であり、その工夫が「無知のヴェール」である。「無知のヴェール」は正義の原理を導出するための道徳的条件に他ならない。ちなみに、ロールズの正義の原理は、フランチェスコのいう「最も恵まれないもの」を社会的に最も手厚く配慮するというものであった。

この考え方を応用して、フランチェスコが説く清貧を「無欲のヴェール」という観念によって解釈しよう。ロールズの「無知のヴェール」の下では、各人の特性の差異は消去されているが、さまざまな欲求に基づく自己利益の追求は許されている。「無欲のヴェール」は、そうした金銭欲・所有欲・権力欲そのものを消去する。これは

どのような徳目を可能にするのだろうか。富や利得や権力を超越し、(甲)それらを追求する必要のない世界は、有限性と希少性を否定した(乙)無限の世界であり、無限の世界においてなお求められる価値は博愛であろう。人々は何も持たず、何も持つ必要がないことによって初めて、普遍的で無限の愛の大切さを知るのではないか。

もう一歩話を進めよう。フランチェスコにとって、苦悩・病気・死は神の恩恵であり、とりわけ「死は清貧の最高峰である」という。なぜなら、死は自分のもの（自己および所有物）のいっさいを奪い去り、自己という存在の特性のすべてを消去することであり、死の想定は「無存在のヴェール」と呼ぶことができる。「無存在」すなわち死を想定することは、ハイデガー(注4)のいう「死に臨む存在」としての実存的自覚、すなわち生の不安と絶望への自覚を可能にする。死への自覚とは、決死の覚悟で真剣に生と向き合い、生の存在の意味を考えることである。「決死」とか「必死」という言葉は日常的に使われており、われわれが体験できない境地ではない。

これで三つの「無」のヴェールが揃ったことになる。「無知のヴェール」、「無欲のヴェール」、「無存在のヴェール」である。これらはいずれも仮想的状況を想定するための概念的道具であって、現実にそうせよと強制するものではない。無知や貧困や死は、現実においては、人々がそれから逃れたいと思っている災害・不幸である。三つの「無」のヴェールの概念は、マイナスの価値からプラスの価値を発見するための思考実験の道具である。清貧の思想は、聖人フランチェスコのような壮絶崇高な生き方を俗人に迫るものではない。

俗人は、無知や無欲や無存在の世界を思考実験することによって、新しい境地に立つことができればよい。新しい境地とは、想像力に基づく非日常的な道徳的観点である。いいかえれば、「無」のヴェールは、人々に正義や友愛や実存に至る「道徳的推論法」を教えるのである。

現実世界に住む俗人にとって清貧の教訓は何か。それは、貧しさ・豊かさの論理の逆転が必要ではないかという反省である。常識的には、貧富は「必要」の充足のための所有物の多寡をいう。物質的な「必要」の充足を基準とするならば、物質的に豊かになるにつれて欲求はたえず拡大し、たえず欲求不満の状態に置かれる。「必要」とは、資本制社会の常識や慣習によって教え込まれた基準に他ならない。しかし、人間の本質からみると、真の

貧しさとは社会が「不必要」とみなすものを欠くことをいい、真の豊かさとは社会が「不必要」とみなすものを持つことである。「不必要」なものとは「余分なもの」であり、欲求充足の「必要」によって強制されるものではなく、人間が真に自由に選び取るもののことをいう。真に豊かになるためには、この意味の「不必要」なものを手に入れなければならない。

道徳は単に個人の生き方ではなく、社会のルールであり、そのあり方を問うことはすべての人々の公共的討議の課題である。清貧の生き方は、限られた数の「世捨て人」にしかできない。彼らだけでは世の中は変わらない。世の大多数を占める「俗人」にとっては、「無」のヴェールの体験こそが不可欠である。「俗人」にとっての「無」のヴェールの意義は、世界内存在に(b)[redacted]頽落してしまっている自己を世間的束縛から切り離し、自己のある側面を空・無にするための反事実的思考実験（無知・無欲・無存在の想定）を行うことにある。フランチェスコの凄さは、それを壇上の説法ではなく、日常の実践としたことにある。普通の人はその真似をすることはできない。しかし、俗人にとっての教訓は、(3)「無」のヴェールの「道徳的推論法」を体験し、その立場から公共的問題について発言することである。社会の問題を論ずるためには、自己の固有の側面を「無」にしなければならないからである。

（塩野谷祐一「聖フランチェスコと「無」のヴェール―清貧の思想をどのように受け取ったらよいか―」による）

（注）
1　聖フランチェスコ――イタリアのキリスト教修道士（一一八二～一二二六）。
2　曾野綾子――日本の小説家（一九三一～）。
3　ジョン・ロールズ――アメリカの政治哲学者（一九二一～二〇〇二）。
4　ハイデガー――ドイツの哲学者（一八八九～一九七六）。

問

(A) ‖線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。（ただし、楷書で記すこと）

(B) ▌線部(a)・(b)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(C) 空欄 a ・ b にはそれぞれどのような言葉を補ったらよいか。それぞれ二字の熟語で答えよ。

(D) ——線部(1)について。これはどういうことか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 物質的貧困に耐えられることがそのまま無欲であることの証明になるとフランチェスコは考えた。
2 物質的に貧しい生活を続けると人は最後には心の品位を失うことになるとフランチェスコは考えた。
3 フランチェスコにとっては精神性を失うことは物への執着を失うことに結び付いていた。
4 フランチェスコにとって無欲の境地に達するためには物質的豊かさを否定する必要があった。
5 無欲な人ならばどのような貧乏を強いられようとも我慢できるとフランチェスコは考えた。

(E) ——線部(2)について。「無知のヴェール」について述べた文として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 「無知のヴェール」をかけると人々は幸福を追求することができなくなる。
2 「無知のヴェール」をかけさえすれば人々は正義が実現した社会で共存できる。
3 「無知のヴェール」には他者の欲望を見えなくする力がある。
4 「無知のヴェール」をかけなければ公正な正義は実現できない。
5 「無知のヴェール」は道徳的条件にすぎず、必ずしも論理的でない。

(F) 〰〰線部(甲)と(乙)について。(甲)の「世界」と(乙)の「世界」の関係について述べた文として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 (甲)の世界は具体的現象であり、(乙)の世界をその理念的根拠として成立する。

2　(甲)の世界は「無欲のヴェール」をかけることによって(乙)の世界へと変化する。
3　(甲)の世界はその内容によって必然的に(乙)の世界であることが判明する。
4　(甲)の世界は個人的世界だが、博愛の精神に導かれて(乙)の無限の世界に移行する。
5　(甲)の世界で無欲を実践することによって、全く新しい(乙)の世界が得られる。

(G)　――線部(3)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
1　人々がそれぞれ責任あるひとりの人間として、社会問題に自分らしく主体的に関わる姿勢を持つこと。
2　フランチェスコの清貧の精神を、現代の物質的に豊かな社会に生きる俗人にも実践できるようにすること。
3　社会的問題の討議に加わることによって、人々が各自の特殊事情を必ずしも考慮しなくなること。
4　真に必要なものが何かを明らかにするために、人々が社会的に不必要とされるものを捨てること。
5　人々が自分の存在を放棄することによって、未来の世代に公正な社会を残すための討議をすること。

(H)　左記各項のうち、本文の趣旨と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
イ　ライフ・スタイルとしての清貧の思想は、各人が自分の生活の中で思考実験を行えば個人的に実現可能だ。
ロ　現代人も本文中の「道徳的推論法」によれば、無欲を実践しなくても博愛の精神の大切さを実感できる。
ハ　道徳は人の内面に働くものだから、フランチェスコのような信仰を伴ってはじめて意味を持つ。
ニ　公正な社会とは個性豊かな人々がそれぞれの意志に基づいて自由に活動できる社会のことだ。
ホ　人々がそれぞれ自らの死を自覚することは社会的にプラスの価値を見出す思考実験のひとつだ。

三　左の文章を読んで後の設問に答えよ。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

八幡別当頼清[注1]が遠流[注2]にて、永秀法師といふ者ありけり。家貧しくて、(1)心すけりける。夜昼、笛を吹くより外の事なし。かしかましさにたへぬ隣り家、やうやう立ち去りて後には、人もなくなりにけれど、(2)さらにいたまず。さこそ貧しけれど、落ちぶれたる振る舞ひなどはせざりければ、さすがに人いやしむべき事なし。頼清聞き、あはれみて使ひやりて、「などかは何事ものたまはせぬ。かやうに侍れば、(3)さらぬ人だに、事にふれてさのみこそ申し承る事にて侍れ。(4)うとくおぼすべからず。便りあらん事は、憚らずのたまはせよ」といはせたりければ、「返す返す、かしこまり侍り。年来も申さばやと思ひながら、身のあやしさに、かつは恐れ、かつは憚りてまかり過ぎ侍るなり。深く望み申すべき事侍り。すみやかに参りて申し侍るべし」といふ。「何事にか、よしなき情をかけて、(5)うるさき事やいひかけられん」と思へど、(イ)「彼の身のほどには、いかばかりの事かあらん」と思ひあなづりて過す程に、ある片夕暮れに出で来たれり。則ち出で合ひて、「何事に」などいふ。(ロ)「あさからぬ所望侍るを、思ひ給へてまかり過ぎ侍りし程に、(7)一日の仰せを悦びて、左右なく参りて侍る」といふ。「疑ひなく、所知[注3]など望むべきなめり」と思ひて、これを尋ぬれば、「筑紫に御領多く侍れば、漢竹[注4]の笛の、事よろしく侍らん一つ召して給はらん。これ、身に取りてきはまれる望みにて侍れど、あやしの身には得がたき物にて、年来えまうけ侍らず」といふ。(8)思ひの外に、いとあはれに(ハ)覚えて、「いといとやすき事にこそ。すみやかに尋ねて、(9)奉るべし。その外、御用ならん事は侍らずや。月日を送り給ふらん事も心にくからずこそ侍るに、さやうの事も、(10)などかは承らざらん」といへば、「御志はかしこまり侍り。されど、それは事欠け侍らず。二三月に、かく帷一つまうけつれば、十月までは、さらに望むところなし。又、朝夕の事は、おのづからあるに任せつつ、とてもかくても過ぎ侍り」といふ。(ニ)

「げに、すきものにこそ」と、あはれにありがたく覚えて、笛いそぎ尋ねつつ送りけり。

（『発心集』による）

（注）1　八幡別当――石清水八幡宮の別当。
2　遠流――遠い親類。
3　所知――領地。
4　漢竹――中国原産の竹をいい、多く笛に用いた。

問

(A)――線部(1)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　風流心があった　2　心がすさんでいた　3　探求心が旺盛であった
4　依頼心が強かった　5　心に信念を持っていた

(B)――線部(2)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　まったく家は壊れなかった
2　まったく病気が回復しなかった
3　まったく気にしなかった
4　ますます同情されなかった
5　ますます動きようがなかった

(C)――線部(3)「さらぬ人」とはどういう人か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1　笛を吹かない人　2　隣家から出て行かない人　3　出家しない人
4　何も言わない人　5　縁もゆかりもない人

(D)――線部(4)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　つらく　2　よそよそしく　3　不満に　4　心配に　5　不思議に

(E) ――線部(5)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 騒音のこと　2 引っ越しのこと　3 許せないこと
4 面倒なこと　5 訴訟のこと

(F) ――線部(6)について。なぜそう思ったのか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 遠い親類だから　2 畏れ多いから　3 身分が低いから
4 健康状態が良くないから　5 ぜいたくに暮らしているから

(G) ――線部(7)の指している部分として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 「などかは……憚らずのたまはせよ」
2 「返す返す……申し侍るべし」
3 「何事にか……いひかけられん」
4 「彼の身の……事かあらん」
5 「何事に」

(H) ――線部(8)について。なぜ「思ひの外」だったのか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 思ったよりも簡単だったから
2 思ったよりも高価だったから
3 思ったよりも笛が上手だったから
4 思ったよりも難しそうだから
5 思ったよりも遠くにあるものだったから

(I) ――線部(9)を十字以内で現代語訳せよ。(句読点は不要)

(J) ――線部⑽の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 どうしてもお引き受けいただけないでしょうか。
2 どうしてお引き受けしないことがありましょうか。
3 どうしても認められないわけではありません。
4 どうして信用していただけないのでしょうか。
5 どうして納得していただけないのでしょうか。

(K) ═══線部(イ)〜(ニ)はそれぞれ誰の動作・行為か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

1 頼清　2 永秀　3 隣家の人　4 筑紫の人　5 筆者

(L) ━━線部「られ」の文法上の意味は何か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 尊敬　2 可能　3 受身　4 自発　5 推定